

# みんなの声で少人数数学級を

## 少人数数学級実現は父母教師みんなの願い

# 越教組ニュース

越谷市教職員組合  
情宣部  
16.09.27(火)  
Tel 988-3281  
Fax 988-3283

越教組は今年も少人数学級実現を含む教育条件の大幅な改善を求める「教育署名」に取り組みます。

九月四日(日)新越谷駅で、越教組や近隣市町・高教組などから約三〇名が集まり、署名・宣伝活動を行いました。参加した組合員の声です。

①前政権時代の文科省の五カ年計画(2013年～2017年)が実行されていれば、来年には小中全学級が三五人学級になるはずでした。政権が代わり三五人学級は、小一・二でストップしたまま何の進展もありません。

②埼玉独自で小一・二を三五人学級にした当時、埼玉は少人数学級に対して先進的存在でした。ところがその後、全国の自治体が独自に少人数学級を実現していく中、埼玉県はそれ以上の進展を拒み続け、今では少人数学級に関して最低ランクの県になってしまいました。…裏面に一覧表

③現在最も進んでいる山形県では、小・中全学年で三三人学級を実現しています。一三年八月に高橋和雄氏(山形県知事:当時)は「橋づくりから人づくりへの県政:義務教育段階では、三〇人程度の学級編成が望ましい。橋の一本や二本節約すれば、二、三年かければできる」と強い決意を表しました。④埼玉では蕨市が独自に小学校全学年で三五人学級を実現しています。これに先立ち蕨市教組は「三〇人学級を早期に実現することを求める意見書」を市議会に提出し、採択されました。七万人の人口の蕨市で一万三〇〇一筆の署名を集めたといえます。運動とはそういった何年にもわたる地道なものなのです。



小学校三年生は、発達の個人差が顕著になるといわれる「九歳の壁」の時期です。「ギャングエイジ」ともいわれるこの時期は閉鎖的な子ども仲間集団が生まれ、丁寧な指導を要します。また、教育課程面では、抽象的な内容が入り、学校で初めて最初につかる難問となります。三年生の三五人学級はどうしても必要です。先日、越谷市の教育振興

# 「働き方改革実現会議」への不信感

九月三日、安倍首相は、加藤勝信一億総活躍担当相を「働き方改革担当相」に任命しました。

決する場合、公益・労働・経営の三者同数で構成される労働政策審議会(厚労相諮問機関)で議論するのが原則です。これはILO(国際労働機関)が示す国際労働基準でもありません。それをわざわざ別の組織を作って行うということ

著しくバランスを欠く組織で、公正な結論がでるとは思えません。ことさらに心配なのは、「残業代ゼロ法案」の行方です。かつて「ホワイトカラーエグゼンプション」という名で登場し、世論の圧倒的反対に廃案となったこの法案、今度は「労働基準法改正案」として蘇ってきました。対象が高度な専門職で年収一〇〇〇万円以上などとされていますが、一度導入が決まったら、対象年収は徐々に引き下げられ、より多くの労働者が残業代ゼロになることは、明らかです。厳しい目で見守っていくことが不可欠な状況になりました。

## 労働界代表 一名のみ

これを受け加藤担当相は「働き方改革実現会議」を発足させました。しかしそのメンバー構成を見ると、溜息が出てしまいます。何しろ民間議員十五名のうち労働界の代表者は一名だけで、残りの多くを財界・企業関係者が占めているのです。しかしこの事実、話題作りの元アイドルの女優起用のかげにかくれてしまいました。

労働者の待遇改善に本気? 会議は、長時間労働の是正、同一労働同一賃金の実現、高齢者の就業促進、賃金の引き上げ、それに外国人材の受け入れなどをテーマに議論を本格化させ、年度内をめどにまとめる報道(NHK)されました。一見労働者の待遇改善にそった内容に見えますが、

労働者の待遇改善に本気? 会議は、長時間労働の是正、同一労働同一賃金の実現、高齢者の就業促進、賃金の引き上げ、それに外国人材の受け入れなどをテーマに議論を本格化させ、年度内をめどにまとめる報道(NHK)されました。一見労働者の待遇改善にそった内容に見えますが、

## 「ら抜き」ことばが主流派!?

各新聞社は22日付の紙面に「国語に関する世論調査」結果の記事を掲載しました。メインテーマは「ら抜き」ことばの浸透率で、「見る」「出る」の言葉で「見れる」「出れる」を使う人が多数派になったというものでした。

何かと問題となる「ら抜き」ことば一しかしどうして間違っているのか、説明している人は少ないです。「『ら抜き』が許されるのは、五段活用動詞のみである。」と一言添えるだけで、理解もずいぶん違うと思うのですが、その説明がないため、ことさら改めなくてもいいのではないかと感じてしまうのでしよう。

さらに最近増えているのは「れ足す」ことばと指摘するのは、沢辺有司氏。彼はその著書の(「日本語150の秘密」)中で、「『読める』→『読まれる』、『書ける』→『書かれる』…。つけなくてもいい「れ」をつけてしまうのだ。」と書いています。これも五段活用動詞との関わりの中での間違いということになります。

このままでいくと、20年後くらいに、「れ足す」ことば多数派にという見出しが新聞紙上を賑わわせるかもしれませんね。